

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アイシン・エィ・ダブリュ株式会社	階数	地上6F
建設地	愛知県西尾市	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	1,000 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,400 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 予定	評価の実施日	2017年9月1日
敷地面積	26,238 m ²	作成者	高橋 宰
建築面積	11,005 m ²	確認日	2017年9月1日
延床面積	42,134 m ²	確認者	高橋 宰



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 74%, ③上記+②以外の 74%, ④上記+ 74%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 4.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.3

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.0

③敷地内の緑化

5.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **52.5 %**

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0 %**

②資源の有効活用

3.8

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数	評価点		重み係数	評価点		重み係数	全体		
				評価点	評価点		評価点	評価点							
Q 建築物の環境品質														4.1	
Q1 室内環境														3.9	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.2	
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														4.0	
天井、床に吸音材を使用している														0.20	
2 温熱環境														4.2	
2.1 室温制御														4.2	
1 室温														0.50	
2 外皮性能														3.0	
3 ソーン別制御性														3.8	
2.2 湿度制御														5.0	
2.3 空調方式														0.25	
タスクアンドアンビエント空調を採用している														0.38	
3.0														0.20	
5.0														0.30	
3 光・視環境														3.6	
3.1 昼光利用														3.6	
1 昼光率														0.25	
2 方位別開口														3.4	
3 昼光利用設備														0.30	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														0.30	
3.3 照度														3.0	
3.4 照度制御														1.00	
25㎡単位で照度制御、かつ照度センサーで窓際を自動制御														0.15	
5.0														0.25	
4 空気質環境														4.3	
4.1 発生源対策														4.3	
1 化学汚染物質														0.25	
仕上材の100%をF☆☆☆☆としている														0.50	
5.0														1.00	
4.2 換気														2.6	
1 換気量														0.30	
2 自然換気性能														4.0	
3 取り入れ外気への配慮														0.33	
中央監視で一括発停、スケジュール管理。居室換気量30M3/h人														3.0	
1.0														0.33	
4.3 運用管理														5.0	
1 CO ₂ の監視														0.20	
2 喫煙の制御														5.0	
事務室にCO ₂ センサー付全熱交換器採用。CO ₂ 濃度で換気量制御														0.50	
建物室内禁煙														0.50	
Q2 サービス性能														4.1	
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ														4.4	
1 広さ・収納性														0.40	
2 高度情報通信設備対応														3.6	
3 バリアフリー計画														0.40	
OAフロア対応、OA機器用コンセント容量50VA/m ² 以上 他														0.33	
3.0														0.33	
1.2 心理性・快適性														5.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														0.30	
2 リフレッシュスペース														5.0	
3 内装計画														0.33	
事務室天井高3m~4m、北面に連装窓配置														5.0	
食堂横に執務スペースの1%以上のカフェを配置														5.0	
コンセプトを設定し照明設備等を含めた総合的なインテリア計画														5.0	
5.0														0.33	
1.3 維持管理														5.0	
1 維持管理に配慮した設計														0.30	
2 維持管理用機能の確保														5.0	
内外装を含めて維持管理に配慮した計画としている														0.50	
維持管理用機能を確保する計画としている														0.50	
2 耐用性・信頼性														3.3	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.3	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														0.31	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
0.48														0.80	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0	
1 躯体材料の耐用年数														0.20	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.3	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														0.33	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														0.23	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
必要なヶ所のダクトを長寿命化している														0.23	
基準に適合した材料を使用している														4.0	
5.0														0.08	
5.0														0.15	
3.0														0.23	
2.4 信頼性														4.2	
1 空調・換気設備														0.19	
2 給排水・衛生設備														4.0	
3 電気設備														0.20	
4 機械・配管支持方法														5.0	
5 通信・情報設備														0.20	
災害時の重要度を設定した計画としている														0.20	
節水器具採用、系統細分化、受水槽の災害時対応仕様														5.0	
3.0														0.20	
4.0														0.20	
5.0														0.20	
耐震クラスA														5.0	
通信方法の多様化を行い、災害時の情報入手方法を検討している														0.20	

3 対応性・更新性				4.6	0.29			-	4.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高4.1m~6.6m	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比=0.08	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			メイン生産エリア設計床積載荷重20,000N/m ²	5.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				4.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②	更新性を考慮した計画	4.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性			更新性を考慮した計画(EPS、OAフロア 他)	5.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性			主要設備機器を全て屋上に配置	5.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			屋上設備架台にバックアップスペースを確保	4.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37			-	4.3
1 生物環境の保全と創出		独自③	植栽計画で自生種や環境に適した樹種を選定	5.0	0.30			-	5.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	周辺建物とのデザイン統一、生垣による目隠し	4.0	0.40			-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30			-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	来客が利用可能なカフェ、屋外テラスを設置	4.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上			空地率58%、日影率20%、緑被率39%、屋外テラス設置	4.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.9
LR1 エネルギー					0.40				4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制				1.0	0.08			-	1.0
2 自然エネルギー利用			トップライトを設置	5.0	0.26			-	5.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.72	3.8	0.39			-	3.8
4 効率的運用				5.0	0.27			-	5.0
集合住宅以外の評価				5.0	1.00			-	
4.1 モニタリング			各設備のエネルギー監視システムを設置	5.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制			エネルギー監視の実績値を分析して省エネ改善を行う計画	5.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.9
1 水資源保護				3.8	0.15			-	3.8
1.1 節水			節水型器具を採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無			付属棟の屋根雨水を散水に使用するシステムを設置	4.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63			-	3.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生骨材路盤材、塩ビタイル(東リ ロイヤルストーン)、長尺塩ビシート(東リ フレ-	5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	部材の再利用を考慮した計画としている	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22			-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着剤及び塗装材料に指定化学物質の含有無し	5.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0 GWP=1	5.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.6
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO ₂ 排出率75%	4.0	0.33			-	4.0
2 地域環境への配慮				3.8	0.33			-	3.8
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善			卓越風を考慮、隣棟間隔指数=0.8	4.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.2	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自	調整池容量基準600Aに対して700A	4.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	駐車場及び駐輪場を確保	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制			ゴミの分別及び減量対策を計画している	5.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.50			-	
2 振動		独自		3.0	0.50			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			外構照明計画で光害考慮 広告物照明無し	4.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			生産エリアガラスに反射を低減させるフィルムを施工	4.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)アイシン・エイ・ダブリュ株式会社 新ものづくりセンター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				5.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	5.0	0.11	外構緑化:52.49%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)アイシン・エイ・ダブ

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用することにより、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高 H=3.9m以上確保し、オープンスペースとして空間の形状・自由度を考慮。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 見通しの良い環境とし、防犯性に配慮した計画。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 照明設備に加え、トップライト等の自然採光システムを採用。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 リサイクル資材の活用。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に対し十分な対策をとる。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 建設工事で廃棄物の分別を徹底し廃材リサイクルを促進させる